

# 高齢者保健福祉計画・介護保健事業計画の策定にかかるアンケート調査結果



町では、第4期の「開成町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成21年度～23年度）」の策定に取り組んでいます。介護予防や健康づくりなどの保健福祉サービスや介護保険の円滑な運営を計画することによって、高齢者のかたが住みなれた地域で「健やかにいきいきと自分らしく暮らせるまちづくり」をめざします。

現在、実際に介護サービスを利用している家族や住民公募のかたなどで構成される「高齢者保健福祉計画等策定委員会」を設置し、保健・福祉・介護などのさまざまな観点から検討を進めています。

計画策定にあたり、住民の皆さんの意見や要望が反映されるように、アンケート調査を実施しました。このほど調査結果の概要がまとまりましたのでお知らせします。

保健介護課 ☎84・0320

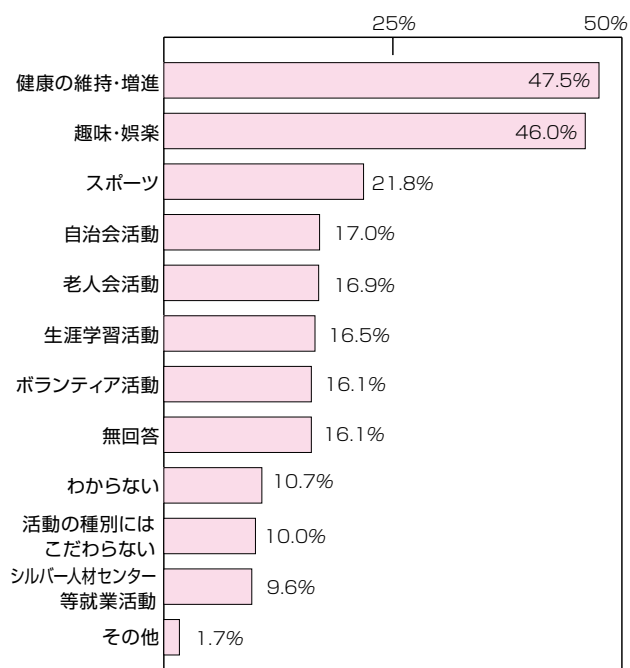
**調査内容**

この調査は「65歳以上の一般高齢者」「介護保険の要介護認定者」「介護サービス提供事業者」に区分して、高齢者などの生活実態、介護サービスや高齢者保健福祉サービスの利用状況や今後の利用意向を把握することを目的として実施しました。調査対象ごとの回答数は表1のとおりです。

(表1)調査対象・回答結果

	実施時期	発送数(人)	有効回答数(人)	有効回答率(%)	
一般高齢者(65歳以上)		700	522	74.5	
要介護認定者	在宅サービス利用者	平成20年3月	178	115	64.6
	施設サービス利用者		68	43	63.2
	介護サービス未利用者		49	30	61.2
サービス提供事業者	平成20年8月	94	63	67.0	

(図1)参加したい活動



「参加したい活動」と答えており、今後、サービスの内容についてさらなる周知を行っていきま

**●施設サービス利用者**

特別養護老人ホームなどの施設に入所しているかたの調査では、要介護4と5の重度のかたが6割を占め、「介護する人がいない」などの理由で施設に入所しており、在宅生活の難しさが挙げられています。

利用しない回答者が30人いますが、利用しないかたの要介護状態区分は、要支援2のかたが最も多く2割を占め、その理由としては、現在はサービスを受ける状態ではないが念のため認定を受けたというかたです。次いで要介護5のかたで、入院中のかたが多くなっています。

前回調査で「隣近所の目が気になるので利用しない」と1割のかたが答えていましたが、今回は3割と減少し、徐々に制度が浸透してきたことがわかります。

**介護サービス提供事業者**

町民が利用している県内の事業者に対しての調査における、各事業者の特長は、「利用者へのきめ細かい対応」「適切な口腔ケア」「医師や看護師との連携」「QOL（生活の質）の向上」の順でした。

また、最近の課題は、6割が「職員の確保が難しい」、4割が「介護報酬が下がり経営が厳しい」と答えています。これらは開成町だけではなく、全国的にも挙げられている課題です。

## 介護保険の要介護認定者

### ●在宅サービス利用者

現在、在宅で介護サービスを利用しているかたの調査では、希望する介護として「在宅で介護サービスなどを利用しながら家族の介護を受ける」が半数を占め、前回のほぼ2倍になっています。(図2)

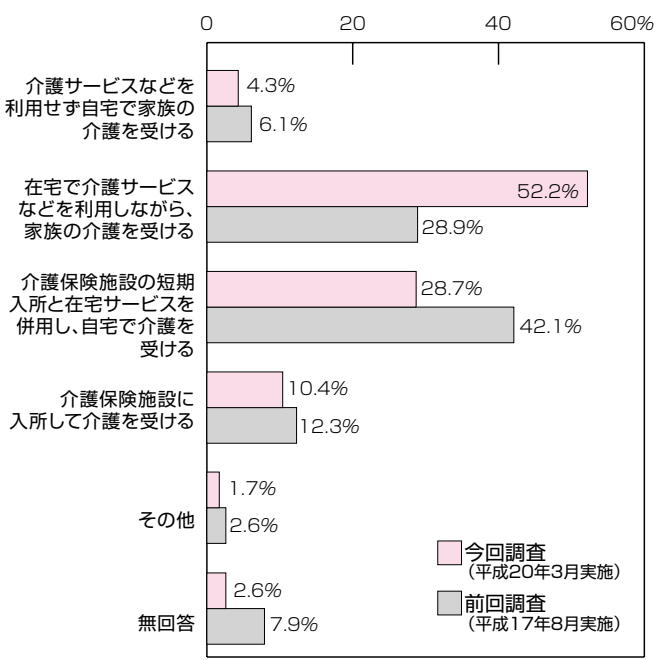
介護サービスの利用による変化は、「生活が規則的になった」が前回調査より増加し3

割、次いで「家族が精神的に楽になった」の順です。

サービスの利用状況としては、「通所介護」「福祉用具の貸与」が5割、次いで「福祉用具の購入費の支給」の順です。今後の利用希望についても「通所介護」「福祉用具の貸与」「福祉用具の購入費の支給」と同じ順でした。

平成18年度の制度改正できた新たな認知症対応型通所介護や認知症対応型生活介護などの地域密着型サービスには、2割のかたが「今まで知

(図2)希望する介護



### ●皆さんの意見を募集します

今回の調査によりさまざまな課題が見えてきました。町だけでは解決が難しいものもありますが、これらの結果を踏まえ、委員と意見交換をしながら計画の策定作業を進めていきます。ご意見・ご要望がありましたら、保健介護課までお気軽にお寄せください。



## 65歳以上の一般高齢者

**●健康意識が前回よりも向上**

現在の健康状態は、「ふつう」が半数、「まあよい」と「よい」で3割、「あまりよくない」と「よくない」で2割です。1年前の健康状態との比較は、「かわらない」が6割、「良くなった」と「少し良くなった」で1割、「少し悪くなった」と「悪くなった」で3割です。

**●参加したい活動は、健康の維持・増進**

外出の頻度は、「ほとんど毎日」が4割で、外出の目的は「買い物」が8割と圧倒的に多く、次いで「散歩」が続きます。意識的に健康づくりに取り組んでいるかたがいます。参加したい活動は、「健康の維持・

増進の活動」が最も多く、次いで「趣味・娯楽」「スポーツ」と続きます。(図1)

「自治会活動」や「ボランティア活動」にも意欲的で、社会の役に立ちたいと前向きです。幅広い経験や能力を発揮できる場の確保が、生きがい対策として求められています。

### ●各種健診を7割が希望

今後利用したい介護サービスは、「福祉用具の貸与」が6割、次いで「訪問看護」「住宅改修費の支給」の順です。ほかの介護サービスについても半数のかたが利用したいと答えています。

保健福祉サービスの利用希望は、「各種健診」が7割で一番多く、次いで「健康教育・相談」と健康づくりに関することが続き、福祉サービスの「福祉移送サービス」「緊急通報体制」、そして、介護予防の「認知症予防教室」「いきいき元氣塾」「栄養改善教室」と続きます。

疾病予防のための健康づくり事業の充実と自立した生活を支える事業を整備する必要があります。